

基礎看護学（基礎看護学領域）

1 構 成 員

	平成 27 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
准教授	1 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
助教（うち病院籍）	1 人	(0 人)
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	2 人	
その他（技術補佐員等）	0 人	
合計	5 人	

2 教員の異動状況

片山 はるみ（教授）（H24.4.1～現職）

鈴木 美奈（准教授）（H23.7.1～H25.3.31 助教；H25.4.1～現職）

村松 妙子（助教）（H20.9.1～H25.3.31 教務補佐員；H25.4.1～現職）

下川 唯（教務補佐員）（H25.4.1～現職）

水嶋 好美（教務補佐員）（H26.4.1～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 26 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	2 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. Katayama H, Suzuki M, Muramatsu T, Totsu Y, Shimogawa Y, Suzue T: Effect of program based on the drawing-method about attitude toward death for response to "Tashi-society" -Using data of Japanese nursing students, American Public Health Association, 2014,
<https://apha.confex.com/apha/142am/webprogram/Paper303328.html>
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
1. Yamamoto E, Tanaka T, Hyoudou Y, Katayama H, Kuwabara Y: Attempt of Social Skills Training for Act of Awareness from Swiss Cheese Flow Experience Game, The Fifth Asian Conference on Psychology & the Behavioral Sciences, 2015,<http://issuu.com/iafor/docs/acas-accs-2015>.

(2-2) レター

(3) 総 説

(4) 著 書

(5) 症例報告

4 特許等の出願状況

	平成 26 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

(万円未満四捨五入)

	平成 26 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	1 件	(170 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	(0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件	(0 万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0 件	(0 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

村松妙子, 若手研究 (B), 看護学生の倫理的感受性測定尺度の開発, 平成25年度～平成27年度, 170(万円)

(2) 厚生労働科学研究費

(3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

(5) 受託研究または共同研究

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	0 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	0 件
(3) 学会座長回数	0 件	2 件
(4) 学会開催回数	0 件	1 件
(5) 学会役員等回数	0 件	1 件
(6) 一般演題発表数	2 件	

(1) 国際学会等開催・参加

- 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表
- 5) 一般発表

口頭発表

ポスター発表

1. Katayama H, Suzuki M, Muramatsu T, Totsu Y, Shimogawa Y, Suzue T: Effect of program based on the drawing-method about attitude toward death for response to "Tashi-society" -Using data of Japanese nursing students, American Public Health Association, 2014, New Orleans.
2. Yamamoto E, Tanaka T, Hyoudou Y, Katayama H, Kuwabara Y: Attempt of Social Skills Training for Act of Awareness from Swiss Cheese Flow Experience Game, The Fifth Asian Conference on Psychology & the Behavioral Sciences, 2015, Osaka.

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

片山はるみ、大会長、第 24 回日本描画テスト・描画療法学会 平成 26 年 9 月 13 日、14 日
浜松アクトシティコンgresセンター

鈴木 美奈、学会事務局長、第 24 回日本描画テスト・描画療法学会 平成 26 年 9 月 13 日、
14 日 浜松アクトシティコンgresセンター

2) 学会における特別講演・招待講演

3) シンポジウム発表

4) 座長をした学会名

片山 はるみ 日本描画テスト描画療法学会 第 24 回大会

片山 はるみ 第 19 回日本看護研究学会東海地方海学術集会

鈴木 美奈 第 19 回日本看護研究学会東海地方海学術集会

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

片山はるみ 日本描画テスト・描画療法学会 理事

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

9 共同研究の実施状況

	平成26年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

10 産学共同研究

	平成26年度
産学共同研究	1件

共同研究契約先：浜松ホトニクス株式会社、研究題目：唾液分析の看護学への応用

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

15 新聞，雑誌等による報道